

早めの避難があなたの命を救います

災害から自分の身を守る最善の方法は、災害が発生する場所に居合わせないことです。大雨や台風などの影響で危ないと感じたときは、町や消防、警察などの指示がなくても早めに安全な場所に避難するように心がけましょう。避難が遅れた場合は、避難する際に被災する可能性がありますので、無理な移動は避け、近隣の高い建物や自宅の2階などより安全な場所に避難するようにしましょう。

自分の地域から一人の犠牲者も出さない

あなたが、躊躇なく懸命に自分の命を守り逃げる姿は、まわりの人の心や体を動かします。それが防災の基本であり、地域から犠牲者を出さないことにつながります。

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

全国の河川の「雨量」「水位」「河川予警報」等の情報をリアルタイムで提供することにより、近年頻発している大雨・集中豪雨による水害・水難時の迅速・的確な避難等が可能になります。

国土交通省「川の防災情報」

・パソコンから <http://www.river.go.jp/>



・携帯電話から <http://i.river.go.jp/>



島根県「しまね防災情報」

・ <http://www.bousai-shimane.jp/>



本書の使い方

本書は、いずれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日ごろ内容に目を通し理解を深めていきましょう。

本書の特徴

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常は、地図部分や「わが家の防災・緊急情報メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご利用ください。

発行：吉賀町

制作・著者：株式会社ゼンリン 山口営業所

作成：令和3年3月

「この地図は島根県が作成した森林基本図1:5,000を原図とし、島根県知事の承認を得て使用したものである。」
(承認番号 平成31年1月23日付け指令第1404号)

防災 マップ



吉賀町

※本書に掲載の情報は令和3年3月時点のものです。
最新の情報については、気象庁や島根県、吉賀町のホームページ等でご確認ください。

町民の皆様へ

町民一人ひとりが防災の主役

町民の皆様には、日頃より、町防災行政に格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、近年は、東日本大震災・熊本地震をはじめとする震災や、西日本豪雨・令和元年台風19号などの風水害、豪雪など自然災害が全国各地で発生し、多くの尊い命や財産が失われております。これらの自然災害は、いつ、どこで発生するかわからず、また一度発生するとその被害は甚大なものとなります。特に大型台風や、集中豪雨等による土砂災害や河川の氾濫は、高津川に面している本町においては、非常に注意しなければならない災害の一つであります。

本町では吉賀町地域防災計画が策定されておりますが、防災の基本は、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」、行政施策としての「公助」であり、住民の皆様が地域ぐるみでの防災意識の向上が被害を最小限に抑えるために重要な要素となっております。

「吉賀町防災マップ」は、その防災活動に役立つものと考えておりますので、平常時は日頃の防災対策に、いざ有事の際には、落ち着いて行動できるように活用していただければ幸いです。

令和3年3月
吉賀町長 岩本 一巳

索引

町民の皆様へ・索引	1	指定緊急避難場所・指定避難所・福祉避難所	9~10
大雨・台風に備えましょう!!・洪水情報について	2	吉賀町全図	11~12
災害の種類	3	防災マップ	13~38
大雨のときの行動ガイド	4	洪水浸水想定区域図(計画規模)	39
風水害対策	5	洪水浸水想定区域図(想定最大規模)	40
地震対策・火災対策	6	非常時持出品の準備&チェック	41
災害時要援護者とは?	7	わが家の「防災・緊急情報」×モ	42
自主防災組織とは?	8		

大雨・台風に備えましょう!!

警戒レベルで避難のタイミングをお伝えします。

早め早めの行動が命を守ります

テレビ、ラジオ、気象庁ホームページなどで、最新の防災気象情報を収集するように心がけましょう。危機を感じたら自主的に避難することが重要です。「自分は大丈夫」と思わず、早めに避難しましょう。この「吉賀町防災マップ」を活用し、周辺の危険箇所・避難場所を確認しておきましょう。

避難の情報

気象庁が発表する気象情報をもとに、吉賀町が避難情報を防災無線、町ホームページでお知らせします。下表を参照にして、適切な行動をお願いします。

警戒レベル	避難情報	気象情報	町民がとるべき行動
5	災害発生情報	大雨特別警報 氾濫発生情報	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとってください。
4	避難指示(緊急) 避難勧告	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	危険な場所から、速やかに避難してください。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
3	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報(土砂災害) 洪水警報 氾濫警戒情報	避難に時間を要する人(高齢者、体の不自由な方、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から避難を開始してください。その他の人は、避難の準備を整い次第、危険な場所から避難を始めてください。
2	-	大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報	避難に備え、防災マップ等により、自らの避難行動を確認してください。
1	-	早期注意情報(警報級の可能性)	災害への心構えを高めてください。

洪水情報について

水防法に基づき、高津川の洪水情報をマップに掲載しています。

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 説明

- この「吉賀町防災マップ」で使用しているハザード(危険)情報は「P39~P40 浸水想定区域」参照)、高津川が、計画降雨(流域全体に1日の総雨量260mm、ピーク時の1時間に51mmの降雨があった場合)によって氾濫した場合、洪水による浸水が想定される区域とその水深を示したものです。浸水の目安は「浸水深ランクの目安」でご確認ください。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。

●浸水深ランクの目安



2 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

● 洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

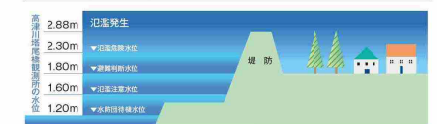
● 洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

● 水位到達情報

- 高津川については、水位周知河川に指定されており、高津川塔尾橋観測所の水位が氾濫注意水位以上の水位に到達したとき、島根県が「水位到達情報」を発表します。

水位の名称	高津川塔尾橋観測所の水位	水位の説明
2.88m	2.88m	氾濫の発生 避難指示等の発令判断の目安となる水位
氾濫危険水位	2.30m	洪水により相当の家屋浸水等の被害を生じる氾濫のおそれがある水位 避難勧告等の発令判断の目安となる水位
避難判断水位	1.80m	避難準備情報等の発令判断の目安となる水位
氾濫注意水位	1.60m	水防団の出動の目安となる水位
水防団待機水位	1.20m	水防団が出動のために待機する水位



風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

まずは、
確実な情報が大事
その次に迅速な対応



強風注意報・暴風警報

強風注意報:
平均風速が12m/sと予想される場合
暴風警報:
平均風速が20m/sと予想される場合

大雨注意報

大雨によって被害が起こる
おそれがあると予測される場合。

・表面雨量指数基準6
・土壌雨量指数基準101

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる
おそれがあると予測される場合。

・表面雨量指数基準12
・土壌雨量指数基準169

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満 やや強い雨	20以上~30未満 強い雨	30以上~50未満 激しい雨	50以上~80未満 非常に激しい雨	80以上~ 猛烈な雨
雨の音で話し声が良く聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がささない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い 猛烈な	44m/s以上54m/s未満 54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりがよくなる発生します。発生予測は比較的に困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるような準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になりますので注意が必要です。(吉賀町内では確認されていません。)

地震対策 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な柔布団などで頭を保護)
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等要注意
津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



3分

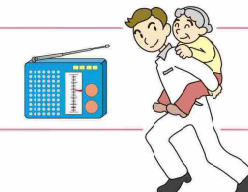
みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう
- 災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火
- 初期消火
- 消火器を使う
- パケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる
- 救出・救護を
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時には極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



10分 数時間 3日

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

火災対策 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 2

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求め。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ



油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が、まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて空気を絶つ。



災害時要援護者とは？

災害が発生したときは、高齢者や心身に障がいのある人、子どもや妊婦などの災害時要援護者の方には特別の配慮が必要です。身近にいる災害時要援護者の方々への手助け、心くばりを心がけてください。

対象となる方は

- 介護・支援が必要な高齢者
- 知的障がいのある方
- 肢体不自由のある方
- 精神の障がいのある方
- 内部障がいのある方
- 妊産婦、乳幼児のいる親や家族
- 視覚に障がいのある方
- 保育園児・小学生
- 聴覚に障がいのある方
- 日本語が不自由な外国人
- 音声・言語機能障がいのある方

避難行動要支援者名簿への登録

吉賀町では、災害時要援護者のうち、自宅で生活しておられる次の方々を『避難行動要支援者』として、あらかじめ名簿に登録し災害時に備えています。

- 1 要支援 1～要介護 5 を受けている者
- 2 身体障害者手帳 3 級以上
(視覚障がいは 2 級以上、音声・言語・そしゃく機能障がいは 4 級以上) を所持する者
- 3 療育手帳 A を所持する知的障がい者
- 4 精神障害者保健福祉手帳 1・2 級を所持する者
- 5 緊急通報電話設置者
- 6 妊産婦及び乳幼児
- 7 難病患者
- 8 日本語に不慣れな在住外国人
- 9 その他名簿に登録することが適当であると判断された方



避難支援等関係者による支援

災害が起こり避難勧告や避難指示があった時、避難行動要支援者名簿に記載された情報をもとに、避難支援等関係者による避難支援(災害に関する情報を伝えてもらったり、一緒に避難するなどの支援)や安否確認が行われます。

ただし、避難支援者が被災するなどにより、支援を受けられない場合もありますので、確実な避難を約束するものではありません。

避難支援等関係者

- 1 吉賀町消防団
- 2 益田広域消防署
- 3 津和野警察署
- 4 民生委員
- 5 吉賀町社会福祉協議会
- 6 自主防災組織
- 7 自治会

自主防災組織とは？

災害から自分たちの地域を自分たちで守るために

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。

自主防災組織は、日頃から災害に備えた様々な取り組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止めるための活動を行います。

また、復旧・復興期には、自主防災組織と地域住民とが力をあわせて、自分たちの町の再生に向けた様々な取り組みを行うことが大切です。

自主防災組織の平常時と災害時の取り組み

平常時

災害に備えた取り組みを実践します。

取り組み事例

- 地域の安全点検
- 避難路・避難場所の確認・点検
- 地域住民に対する防災知識の普及・啓発
- 防災資機材の整備・点検
- 自力で避難や移動が困難な方などの確認
- 防災訓練など

災害時

災害による被害を最小限に食い止める活動や、町の復旧・復興に向けた様々な取り組みを行います。

取り組み事例

- 避難誘導
- 初期消火
- 救出・救護
- 情報の収集・伝達
- 給水・給食
- 避難所の運営
- 地域の巡回・安全点検など

自主防災組織に対する支援

町では、自主防災組織として届出があった組織に対して、地域防災力の向上を目的として、予算の範囲内で補助金を交付しています。

詳しくは、役場総務課までお問い合わせください。

防災士の養成

また、地域防災力の向上の担い手となる人材を養成・確保し、災害に強いまちづくりを推進する事を目的として、防災士資格取得にかかる経費を予算の範囲内で補助しています。

詳しくは、役場総務課までお問い合わせください。